

経営比較分析表（平成29年度決算）

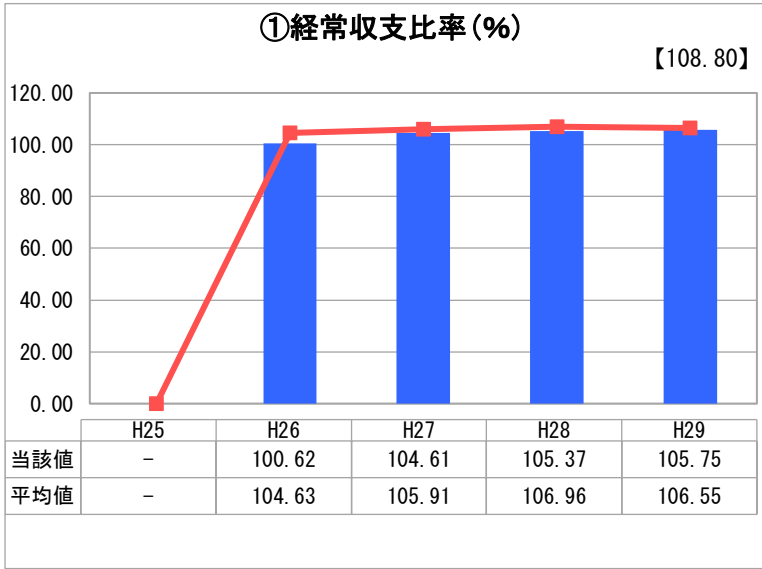
千葉県 柏市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ab	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	72.28	89.81	79.82	2,314

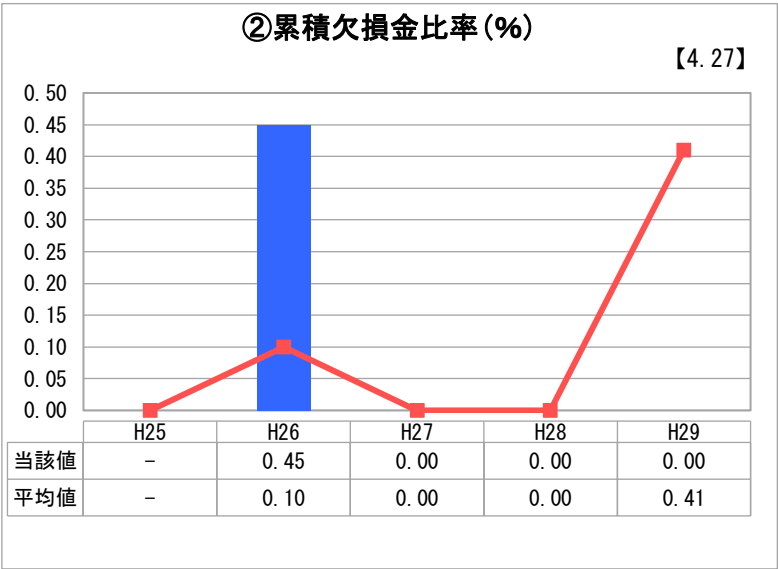
人口（人）	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
416,433	114.74	3,629.36
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
374,700	45.17	8,295.33

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成29年度全国平均

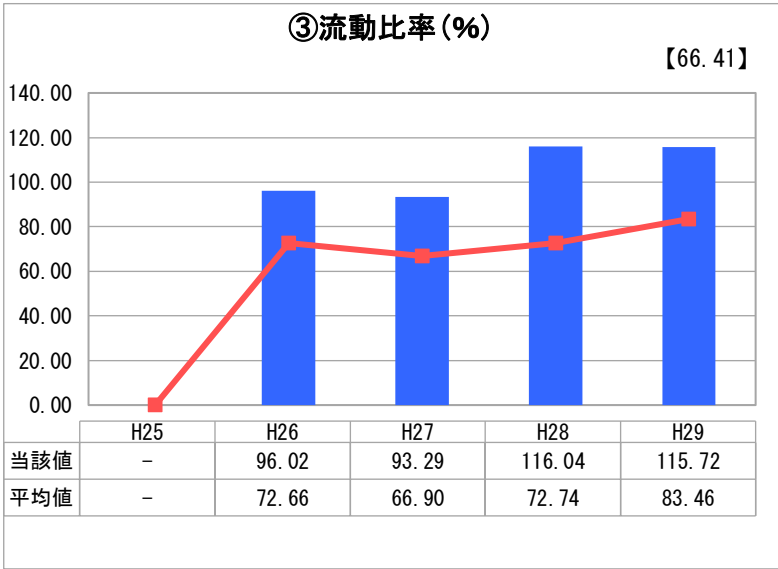
1. 経営の健全性・効率性



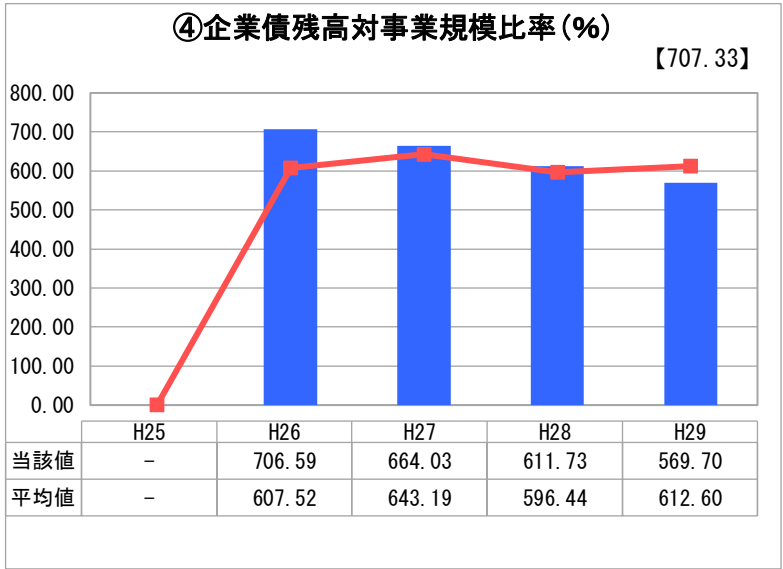
「経常損益」



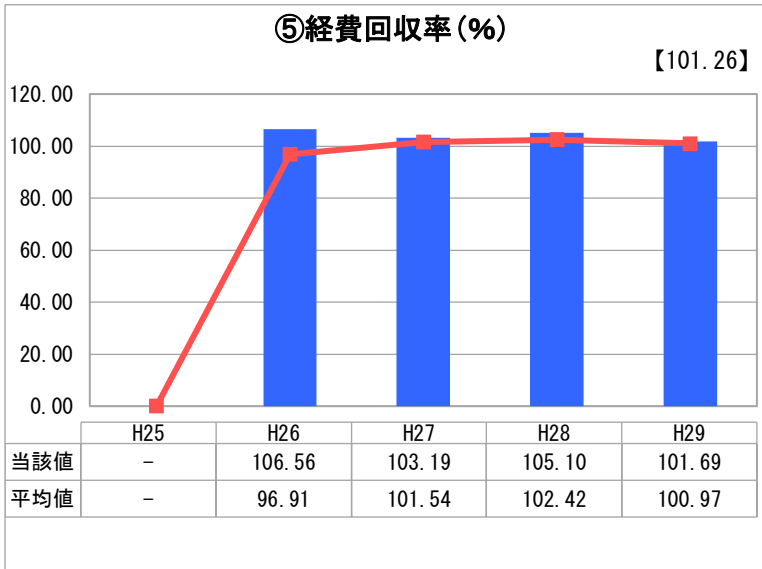
「累積欠損」



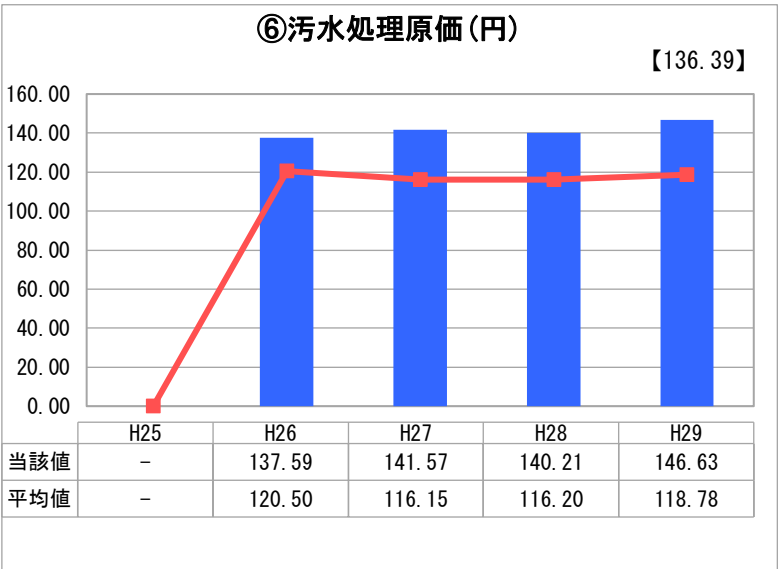
「支払能力」



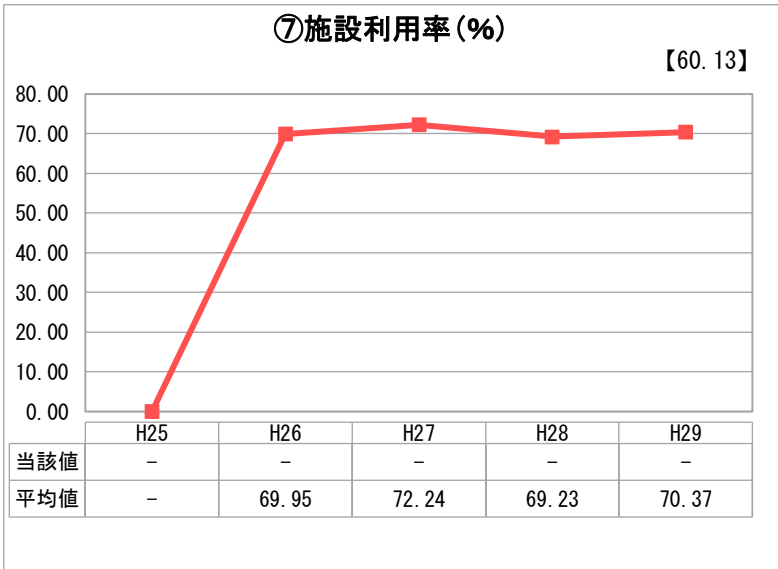
「債務残高」



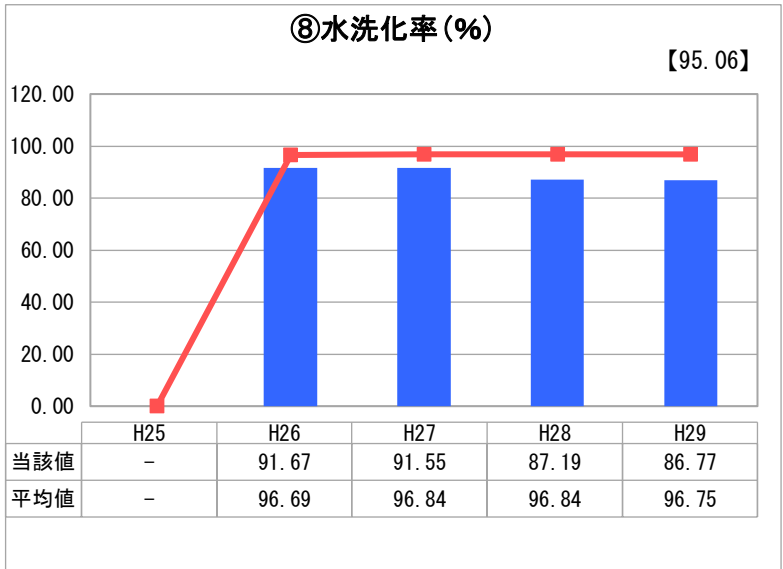
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

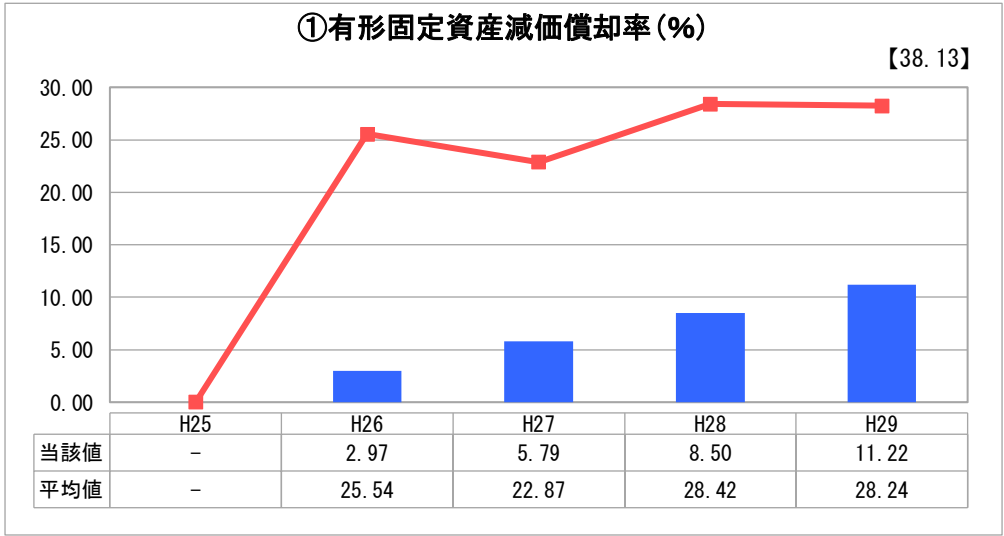


「施設の効率性」

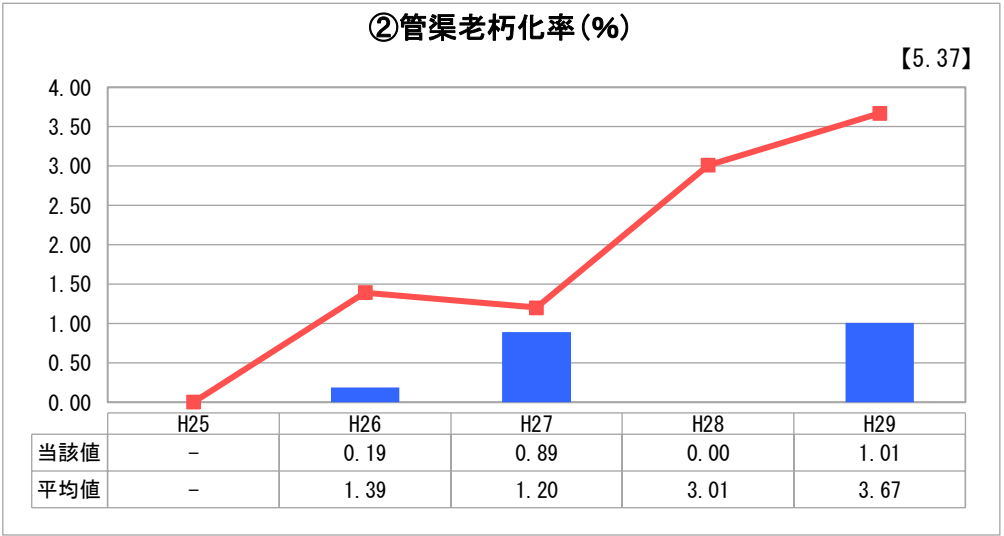


「使用料対象の捕捉」

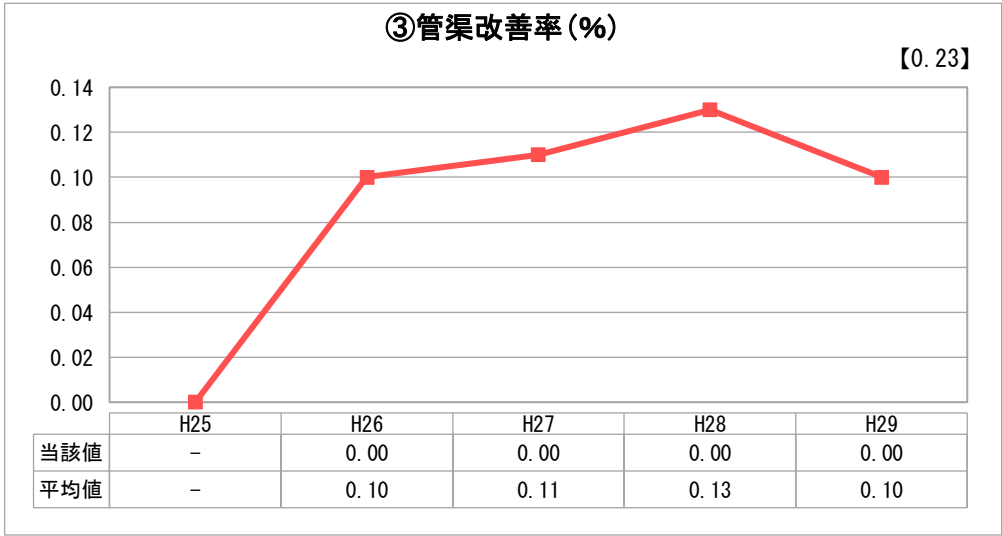
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

1. 経営の健全性・効率性について

当市の場合、経常収支比率及び経費回収率共に、適切なバランスを保っている。

また、流動比率も100%を確保し、キャッシュフロー上も良好である。

しかしながら、汚水処理原価については、上昇傾向にあり、また、全国の平均水準に比べて、高い傾向にある。当市は、下水処理施設を有しておらず、県の流域下水道に接続している。この負担金が、下水道使用料で回収すべき経費の中で大きなウェイトを占めている。

さらに、管路施設の老朽化に伴い事後保全的維持管理の対応件数増加の影響も、今後小さくないものと考えられる。

費用の自然減が見込めない中で、経常経費の更なる圧縮や業務の効率化を目指しつつ、公共インフラとしての下水道を適切に維持管理していくように必要な費用は確保するというバランスが求められている。

2. 老朽化の状況について

平成27年度のストックマネジメント導入により、緊急度等に応じた老朽化対策の優先度順位付けが完了した。

今後は、ストックマネジメント実施計画に基づき、改築更新時期を分散させ、費用を平準化しつつ、健全な管渠状態を確保していくことを目指す。

平成29年度は、老朽管のカメラ調査を実施し、管渠の実態把握を行なった。

平成30年度からは、下水道管路施設の包括的民間委託を導入し、民間のノウハウを活用しながら、限られた予算及び職員数の範囲で、予防保全型の維持管理を計画的に行っていく。

全体総括

現状の経営健全度は、キャッシュフローの面も含めて概ね良好である。

しかしながら、老朽化の進行等に伴う維持補修対応、包括的民間委託導入、流域下水道の維持管理負担金の増加等により、経常的経費は大きく増加していく見込である。

これは、「経費回収率」の悪化や、「企業債残高対事業規模比率」の上昇などにつながる要素である。

引き続き今後も経営戦略に基づく財政見通しをベースとして、規律ある財政運営に努め、健全経営の継続を目指す。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。